

工作機械トップセミナー ～ようこそ夢のある工作機械の世界へ～

KEIRIN

00

本事業は競輪（（公財）JKA）の補助を受けて実施致しました。

当会では、工作機械産業における人材の確保・育成活動の一環として、全国より理工系学生を招待し、世界で活躍する工作機械やその技術の面白さを紹介するためのセミナーを毎年開催している。

（株）ニュースダイジェスト社主催のMECT2023（メカトロテックジャパン2023）に併せて開催した今回のセミナーには、全国各地から332名の学生・教職員が参加した。初日は、メカトロテックジャパン見学及び懇親パーティーを実施し、パーティー会場内には会員32社が企業ブースを設置。技術者・人事担当者等が参加するなどして、学生との交流を大いに深めた。

2日目はセミナーをポートメッセなごや会議ホールにて開催し、北村彰浩氏（キタムラ機械（株）・代表取締役社長）をはじめとする

多彩な講師陣からの講演、及び工作機械エンジニアによるラウンドテーブルトークを通じて、工作機械産業で働くことの素晴らしさ・魅力をアピールした。

1. 全体概要

(1) 開催日 2023年10月21日（土）・22日（日）

(2) 場 所 ・MECT2023見学
ポートメッセなごや
（名古屋市国際展示場）
・懇親パーティー
ポートメッセなごや
コンベンションセンター
コンベンションホールA
・トップセミナー
ポートメッセなごや
交流センター 会議ホール

(3) 主 催：（一社）日本工作機械工業会
共 催：（株）ニュースダイジェスト社

(4) 参加者数 全国の大学・高等専門学校



柚原専務理事による乾杯



企業ブースは多くの学生で賑わう

49校より332名が参加（うち、中部近郊を除く全国各地から、32校268名の学生を日工会が招待）

2. 工作機械トップセミナーの概要

(1) 懇親パーティー（10/21）：

柚原専務理事の乾杯でスタートした。セミナー参加者に加え、会場内には会員32社が企業紹介ブースを設置し100名の技術者・人事担当者等も参加。各ブースを訪れた学生が、各社の特徴や最新技術などについて、積極的に質問する姿が見受けられた。



北村社長の講演



柚原専務理事の開会挨拶

(2) セミナー（10/22）：

柚原専務理事の開会挨拶後、キタムラ機械（株）北村社長、（株）牧野フライス製作所 藤田氏（執行役員 開発本部 副本部長）、（株）イノーバス 奥田氏（代表取締役）が演台に立たれ、それぞれの視点から、ものづくりの魅力や工作機械の重要性について講演された。ラウンドテーブルトークでは、東京電機大学 松村隆教授の司会の下、工作機械メーカーエンジニア4名のスピーカにより、仕事の面白さや学生に対するメッセージが述べられた。いずれの講演も参加者は熱心に聴講していた。



セミナーには330名が参加



ラウンドテーブルトークの様子

セミナープログラム

時 間	内 容
9:00～9:10	開会挨拶 (一社)日本工作機械工業会 専務理事 柚原 一夫
9:10～9:50	基調講演「工作機械の魅力」 講師：北村 彰浩 氏 (キタムラ機械(株) 代表取締役社長)
9:50～10:30	講演「工作機械：日本が世界に誇るデジタル端末」 講師：藤田 祥 氏 (株)牧野フライス製作所 執行役員 開発本部副本部長)
10:30～10:45	休 憩
10:45～11:25	講演「脱炭素EVと地球温暖化」 講師：奥田 富佐二 氏 (株)イノーバス 代表取締役)
11:25～12:30	ラウンドテーブルトーク 「工作機械エンジニアとしての現在と未来」 ファシリテータ：松村 隆 氏 (東京電機大学 教授) スピーカー：並木 龍也 氏 (シチズンマシナリー(株) 開発本部 開発部 製品開発課) 若山 浩之 氏 (キタムラ機械(株) 技術部 機械設計係) 白井 皓太 氏 (村田機械(株) 工作機械事業部 ターニング開発グループ) 袴田 隆永 氏 (オークマ(株) 商品開発部 部長)

第62回（一社）日本工作機械工業会野球大会
ーシチズンマシナリーが2年連続16度目の優勝ー

（一社）日本工作機械工業会野球大会は、日刊工業新聞社と産経新聞社の2社から後援を得て、6チーム参加のもと、11月9日（木）・10日（金）の両日、東京都品川区の大井スポーツセンター野球場にて開催された。

開会式では、柚原大会運営委員長の開会挨拶に続き、前回優勝チームのシチズンマシナリーより優勝杯、優勝旗、優勝楯が返還された。そして、齊藤 椋選手（DMG森精機）が選手宣誓を行い、宮崎理事・環境安全委員会委員長による始球式の後、2日間にわたる熱戦の火蓋が切られた。

今大会では、出場する6チームを2つの

プールに分け、初日に各チーム2試合ずつ行いプール内での順位を決定し（予選ラウンド）、2日目に初日の順位をもとに優勝決定戦・3位決定戦を行うリーグ・トーナメント複合形式を初めて採用した。

大会初日の予選ラウンドは、11月とは思えない暖かい日差しの中で行われた。

その結果、予選ラウンドの順位は、プールAの1位は2試合ともに無失点で勝利したDMG森精機、2位は前回優勝のシチズンマシナリーを破った牧野フライス、3位は前回大会準優勝のヤマザキマザックとなった。プールBの1位は得失点差によりシチズンマシナ



選手宣誓を行う齊藤選手

リー、2位は前回大会3位のオークマ、3位は浜井産業の順となった。

また、今大会では首位打者賞を廃止する代わりに、対戦したチームの中から活躍した選手を互いに選び合う「熱盛賞」を創設した。各チームでは試合終了後に活躍した選手を選び、称えあうシーンが見られた。

大会2日目、午前中は雨模様であいにくのコンディションにより、決勝戦・3位決定戦ともに開始時間を早めて行われた。

決勝戦は、DMG森精機とシチズンマシナリーが対戦した。



最高殊勲選手賞を受賞した小宮山選手



宮崎理事（牧野フライス製作所）による始球式

試合は、5回裏シチズンマシナリーが津金選手のヒットを皮切りに、一気に2点を先制した。これに対しDMG森精機は6回表、井口選手のタイムリーヒットにより1点を取り返した。その後もDMG森精機はヒットを放ちランナーを出すも、シチズンマシナリーの小宮山選手の粘投や堅守に阻まれ、1点差は変わらず2－1でシチズンマシナリーの勝利となった。同社の優勝はシチズン時計時代を含めると、2年連続16回目となる。

優勝したシチズンマシナリー土屋監督は「近々自社でプライベート展示会がある。そ



胴上げされる土屋監督